

平成30年度 全国学力・学習状況調査（平成30年4月17日実施）

三田市の結果概要

「自分が好き、人が好き、このまちが好き、
夢にむかって歩むさんだっ子」

をめざして

三田市教育委員会

本市の結果をお知らせします！

平成30年度全国学力・学習状況調査の「国語、算数・数学、理科」と「質問紙調査」についての分析結果をお知らせします。

平成30年4月17日に文部科学省が、「全国学力・学習状況調査」を行いました。

今年で11回目を迎えるこの調査は、文部科学省が全国の児童生徒の学力や学習状況を調べ、義務教育の成果と課題を確かめ、改善を行うために実施するものです。

三田市では、これまでの調査結果も活用し、分析を進めました。

1 本調査のとらえ方

三田市教育委員会では、この調査の結果を受け、三田市学力向上推進委員会を開催し、三田市の結果分析を進めてきました。三田市の平均正答率は、過去10回と同様に、小学校・中学校共に全国・県平均を上回り“良好”でした。

また、「教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」との関連についても分析した結果、

- ・「毎日、同じぐらいの時刻に寝ている。(P10)」
- ・「家で、学校の宿題をしている (P11)」
- ・「算数/数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。(P12)」
- ・「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。(観察や実験の結果をもとに考察している：中学校) (P12)」
- ・「自分には、よいところがあると思う (P13)」

などと回答している子どもは、平均正答率が高い傾向が見られました。

さらに、各学校においても結果を分析し、学力向上に向けた様々な取組の成果と課題を明らかにし、今後の改善につなぎます。

次代を担う子どもたちが、基本的な生活習慣や学習習慣を身に付け、健やかに育ち、心豊かに生きていくためには、学校と家庭、地域の協力や連携がとても大切です。

三田市教育委員会は、調査結果から見えてきた成果と課題を踏まえ、子どもたちの『生きる力』を育成していくための取組を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

2 調査の概要及び公表方法について

(1) 調査の実施日 平成30年4月17日(火)

(2) 調査の対象 小学校6年生(市内20校 989名) 中学校3年生(市内8校 881名)

(3) 調査内容

①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

・主として「知識」に関する問題(A)(以下(A)と表記)

・主として「活用」に関する問題(B)(以下(B)と表記)

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に扱う

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

(4) 公表方法について

本結果概要では、全国や兵庫県の状況を踏まえた上で、教科と領域ごとの結果と、本市の子どもたちの優れている点やつまずきが見られる点について明らかにすると共に、学びのポイントについて総合的に分析した結果の一部を記載しています。

同様に、子どもたちの学習や生活に対する意識や実態等について、「教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の二つの結果をもとにした、「児童生徒質問紙調査の結果と教科調査とのクロス集計分析(P10～)」を記載しています。

一昨年度より、国・県においては、細かい桁によるわずかな差は、学力面での実質的な違いを示すものではないと考えられるとして、各教科の平均正答率は整数値で公表しています。

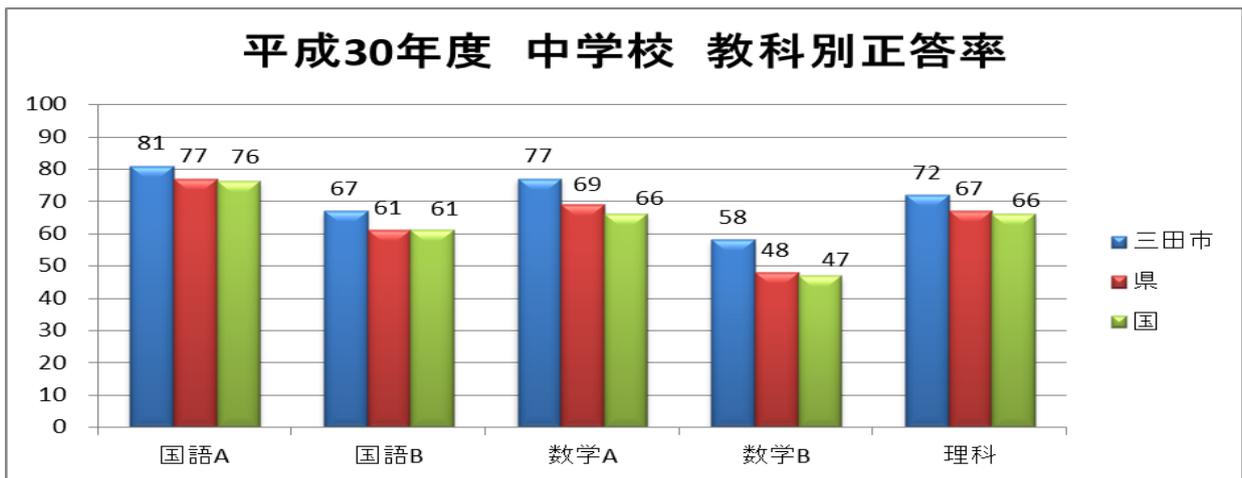
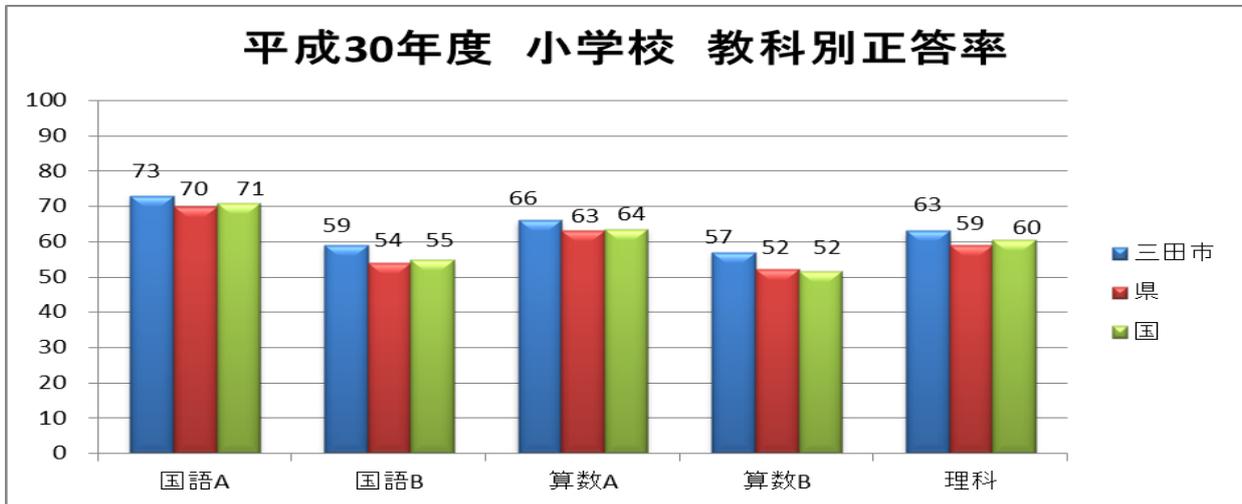
三田市もこれに準じ、各教科及び領域の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数値で公表します。ただし、質問紙の数値については、従来通り、小数点以下第1位の数値を公表します。

3 子どもたちの学力の定着状況について

国語、算数・数学、理科全体の調査結果

全国・兵庫県の状況を踏まえ三田市の現状を分析したところ、結果は

良好でした。



平均正答率 (%)

本市の傾向

※国語、算数・数学、理科の全ての問題において、全国・兵庫県の平均正答率を上回っています。

※今年度は、下記の4項目で全国平均を6ポイント以上、上回っていました。

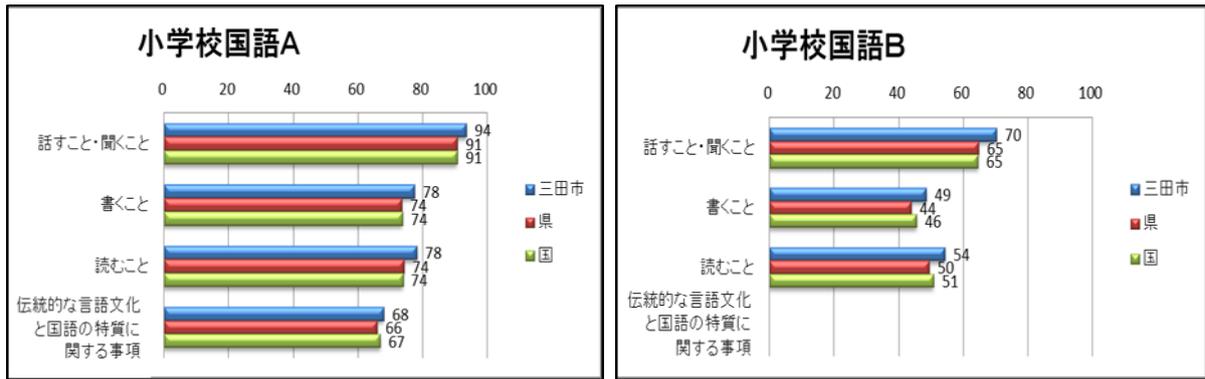
中学校国語(B)(全国平均より+6ポイント)

中学校数学(A)(全国平均より+11ポイント)

中学校数学(B)(全国平均より+11ポイント)

中学校理科 (全国平均より+6ポイント)

①小学校：国語



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- ・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、筋道を立てて話すこと
- ・目的に応じて、必要な情報を捉えること

【課題】

- ①目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと
- ②目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読み、課題を解決すること

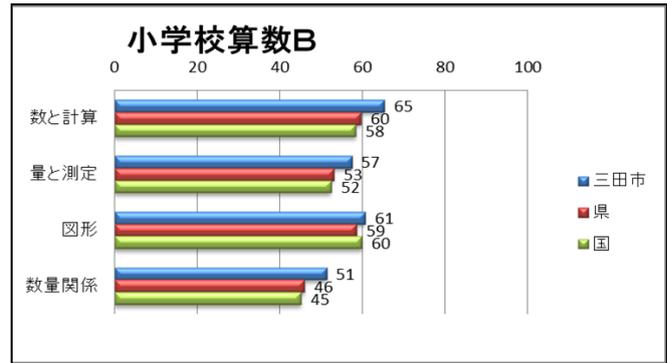
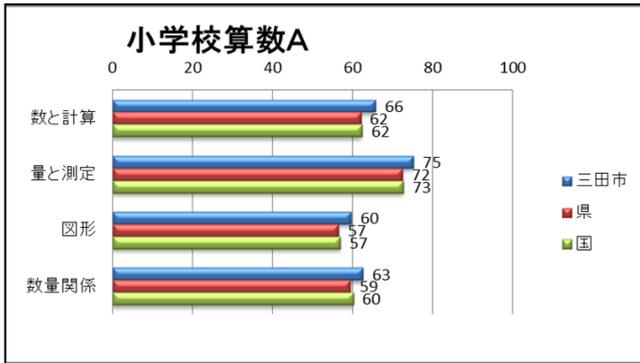
学びのポイント

①目的に合った情報を取捨選択して書く習慣を身につけよう。

②課題解決に向けて、どのような情報が必要なのかを確かめ、複数の本を比べて読もう。

- ・例をあげて詳しく書くために、それぞれの情報からキーワードを見つけて囲んだり、線をつないだりしながら文章を考えていきましょう。
- ・複数の本を比べて読むときには、目次や見出しを活用し、自分に必要な情報を別の言葉に置き換えて探しながら読みましょう。

②小学校：算数



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- 異なる2つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解すること
- 示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現すること

【課題】

- ① 小数の除法の意味を理解すること
- ② 示された数量を関連付け根拠を明確にして記述すること

学びのポイント

① 絵や図などに関連付け、除法の式の理解を深めよう。

② 図や表を活用し、問題場面を理解しやすくしよう。

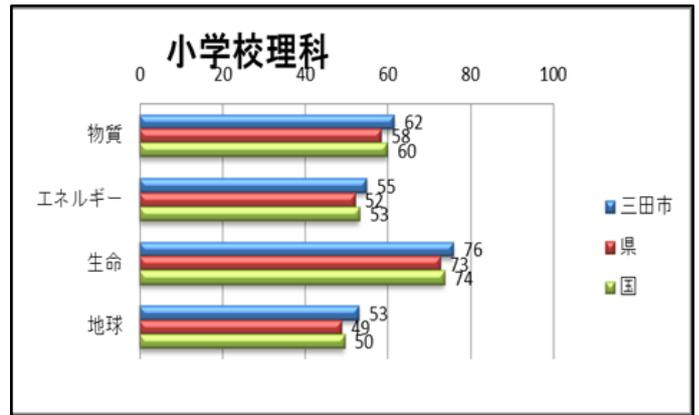
- ・小数の除法の意味については、3学年での整数の除法の学習において、絵や図などに関連付け、除法の式の意味の理解を深めておきましょう。
- ・課題解決の際に、図や表を積極的に活用し、問題場面を理解しやすくしましょう。

	折り紙100枚で	必要な数
折り紙の枚数	100枚	84枚
輪かざりの本数	16本	14本
個数	500個	420個

数字が何を表しているのかが、分かりやすい。

表に書いて説明すると、みんなにもよく伝わる。

③小学校：理科



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- ・科学的な言葉や概念について理解すること
- ・解決すべき課題に対応した視点で実験結果を考察すること

【課題】

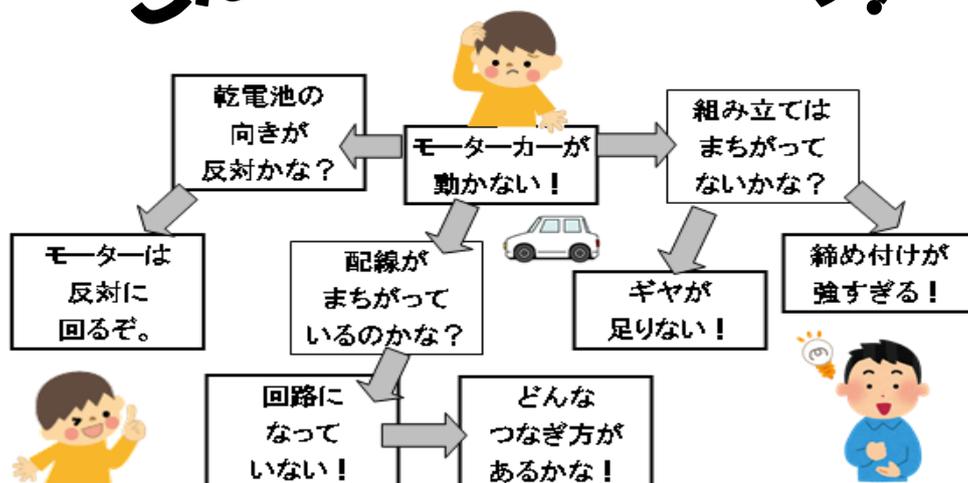
- ①実験結果を見通して実験方法を構想すること
- ②実験や観察から得た考えを他の場面に適用させて考えること

学びのポイント

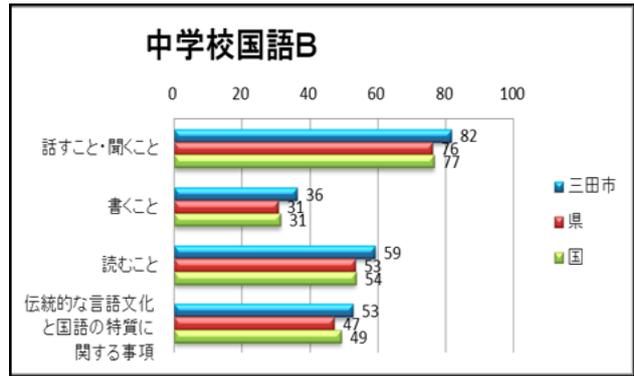
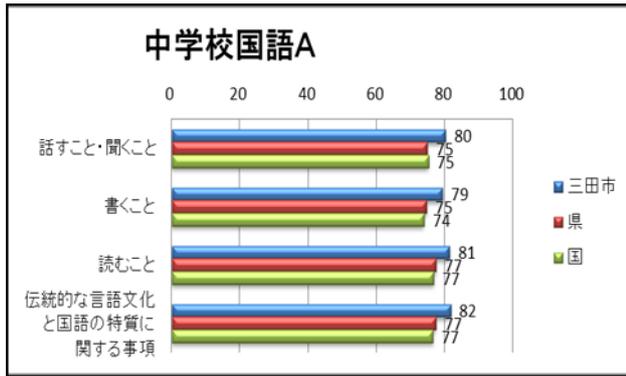
①これまでに学んだことや経験・実験結果などから、課題に対する自分の考えを持ち、友だちと交流しよう。

②実験や観察でうまくいかなかった場合はそのままにせず、その原因を探り、他の課題解決場面に生かそう。

こんな風に考えてみよう！



④中学校：国語



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- ・文章を読み取り要旨をとらえること
- ・知識としての慣用句や漢字の読み、書き、敬語、言葉の意味の理解

【課題】

- ①話の内容をまとめたり、整理したりして書くこと
- ②慣用句や熟語、特に四字熟語の活用に課題がある

学びのポイント

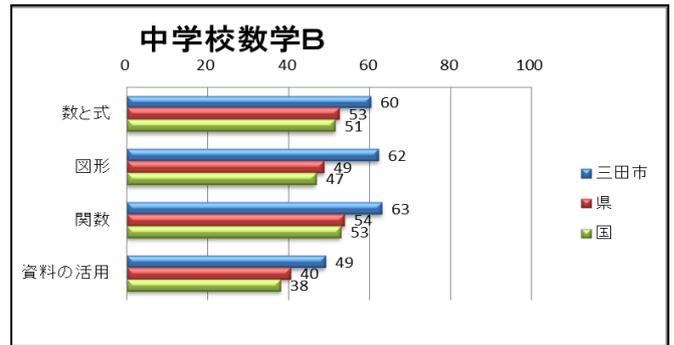
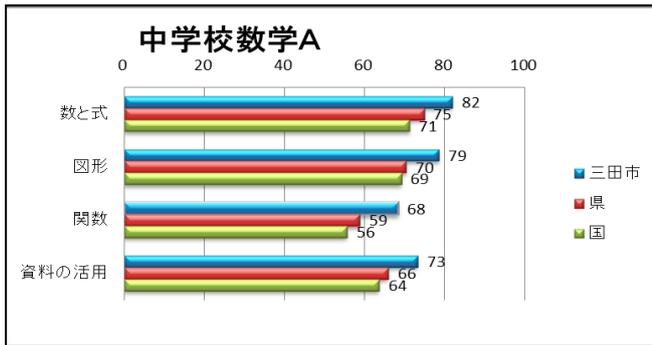
①物語や論説文を学んだ時、内容を短い文章にまとめてみよう。

②慣用句や四字熟語を学んだ時、意味だけでなくそれを使った文を考えよう。

- ・ブックトーク※などを積極的に行い、互いに読書の楽しさを交流したり、ニュースや新聞記事、論説文から情報伝達の方法を学んだりしていこう。
- ・気になった語句をノートに書き留め、その語句を使った短文を作ったり、話や文章の中で実際に使ったりしてみよう。

※ ブックトークは、一つのテーマで、さまざまなジャンルの本を紹介する方法です。自由なテーマでブックトークをしたり、学習に関連したテーマでブックトークをしたりすることで、子どもたちの読書の世界を広げていきます。

⑤中学校：数学



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- ・式の値を求める計算も含め、基礎的な計算問題を正確に解くこと
- ・空間図形を正確に読み取ることや表などを利用して確率を求めること

【課題】

- ①「証明」、「一次関数」、「確率」などの意味を理解すること
- ②数学的な表現を用いて説明することや発展的に考えること

学びのポイント

①数学的な用語の意味をしっかりと認識し、考察ができるようになろう。

②証明問題等では、図をかくなどして具体的なイメージを持ち、定義やその性質・条件を使って説明できるようになろう。

・数学的な用語の意味を理解しましょう。

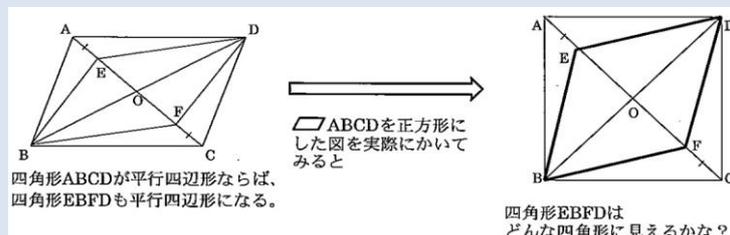
「確率」…… あることがらの起こることが期待される程度を表す数

$$\text{あることがらの起こる確率} = \frac{\text{あることがらの起こる場合の数}}{\text{すべての場合の数}}$$

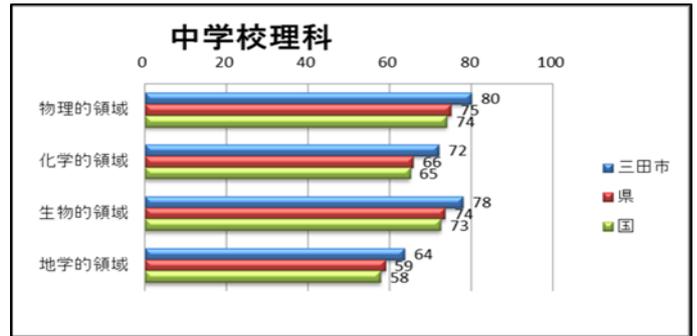
「相対度数」…… $\text{相対度数} = \frac{\text{ある階級の度数}}{\text{度数の合計}}$

実験等を繰り返して得られる数値の場合、あることがらの出やすさを表す数値と見ることもできる。

・具体的なイメージに表わしてみよう。



⑥中学校：理科



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- ・実験器具の操作や記録の仕方など、実験の基本的な知識・技能を活用し、適切に実験を行うこと
- ・観察・実験の結果を表に整理して、必要なデータを読み取ること

【課題】

- ①自然の物事や出来事の中から、そのことが現れたり起こったりする「原因として考えられること」を整理し、実験の目的に応じた条件を見つけ出すこと
- ②公式を活用して、必要な値を求めること

学びのポイント

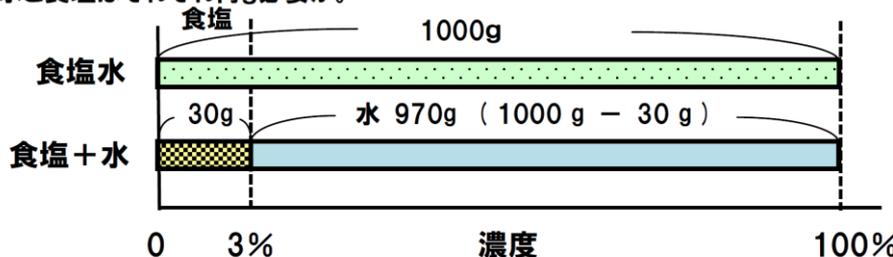
①予想や仮説を立て、見通しをもって実験の計画を立てよう。

②公式の持つ意味を理解しよう。

- ・習得した知識・技能や日常生活の経験から自分の考えをもち、課題解決の見通しが明確になる実験を計画しましょう。
- ・線分図なども利用し、視覚的に課題を捉えましょう。

＜線分図を使って考える例＞

濃度が3%の食塩水 1000gをつくるためには、
水と食塩はそれぞれ何g必要か。



食塩水全体(食塩+水)の質量を1(100%)としたときの食塩の質量の割合が濃度であることを視覚的に捉える。

<食塩> $1000g \times 0.03 = 30g$

<水> $1000g - 30g = 970g$

または、 $1000g \times 0.97 = 970g$

4 子どもたちの学習や生活に対する意識・実態について

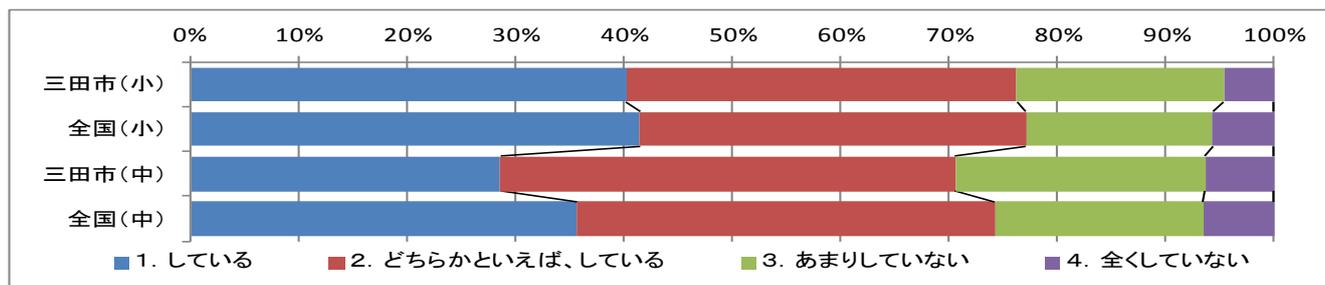


～児童生徒質問紙調査の結果と教科調査とのクロス集計分析より～

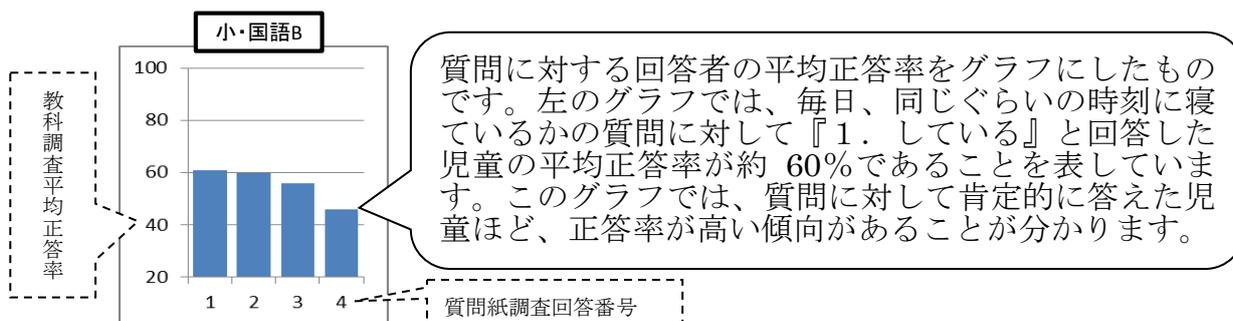
児童生徒質問紙調査については、全国値との比較、小中学校の値の比較から、三田市の特徴や課題を分析します。分析の視点は、これまでと同様に、『生活・学習習慣』『学ぶ意欲』『自尊感情』です。

1 「生活・学習習慣」と学力

Q. 毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか。

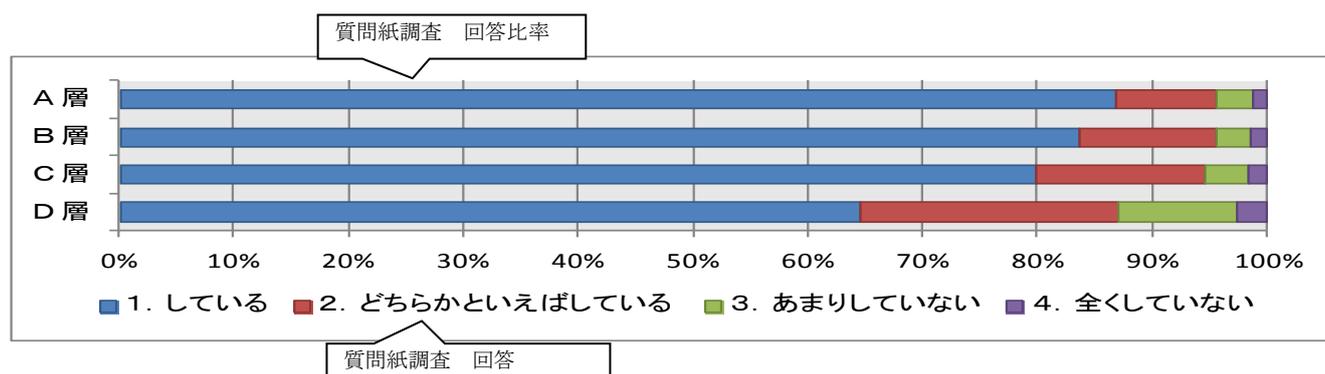


<各教科正答率とのクロス集計>



Q. 朝食を毎日食べていますか。

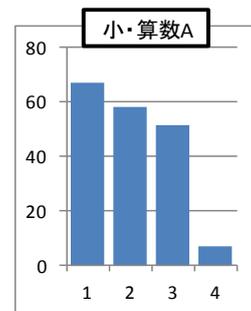
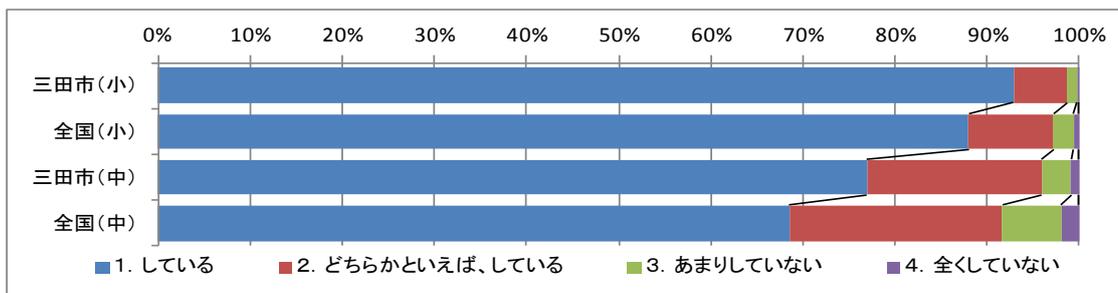
平均正答率の上位 25% (A 層) ～下位 25% (D 層) での回答内訳の比率 【中学校数学 A】



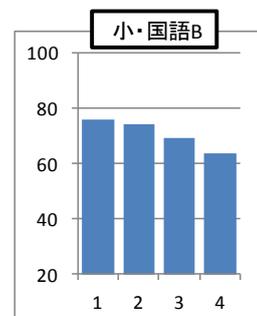
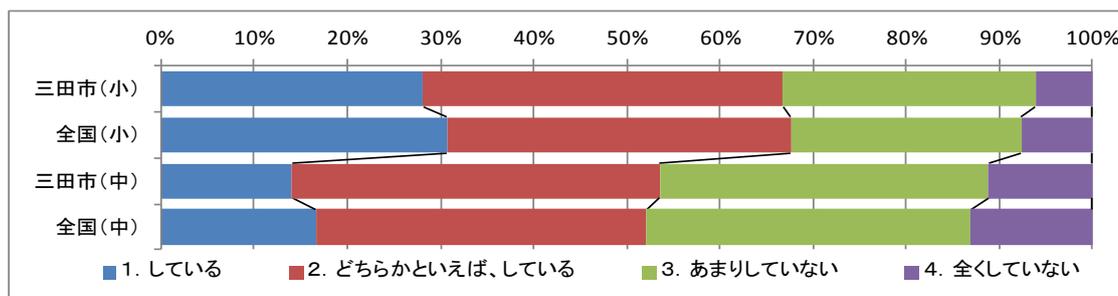
各層は三田市の児童生徒を正答数の大きい順に整理し、人数比率により 25%刻みで 4 つの層に分けています。上位から 1 番目を A 層、2 番目を B 層、3 番目を C 層、4 番目を D 層と呼びます。正答数が同じ場合は、上位の層に含むものとしています。

今回の調査からも、生活習慣を整えることが学力向上の要因の一つとなることが表れています。基本的な生活習慣の確立を図るためには、児童生徒が自己の生活習慣を振り返ったり、家庭と学校が連携して児童生徒の生活習慣作りをサポートしたりする取り組みが大切です。

Q.家で、学校の宿題をしていますか。



Q.家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



一人学びの力をつけよう

- ・「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国平均より高い結果となっています。宿題に対する意識が高いほど、学力が高い傾向が見られます。
- ・一方で「計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国平均より低い結果となっています。
- ・「計画を立てて勉強する」と答えた児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあることから、学力向上には、自主的に学習に取り組む力が大切であることがうかがえます。
- ・三田市では、基本的な学び方を示した『一人学びへの手引き』を小学校5年生全員に配布しています。『一人学びへの手引き』を活用するなど、見通しを持ち、自分で学習を進めていく力を身につけていくことが大切です。

2 「学ぶ意欲」と学力

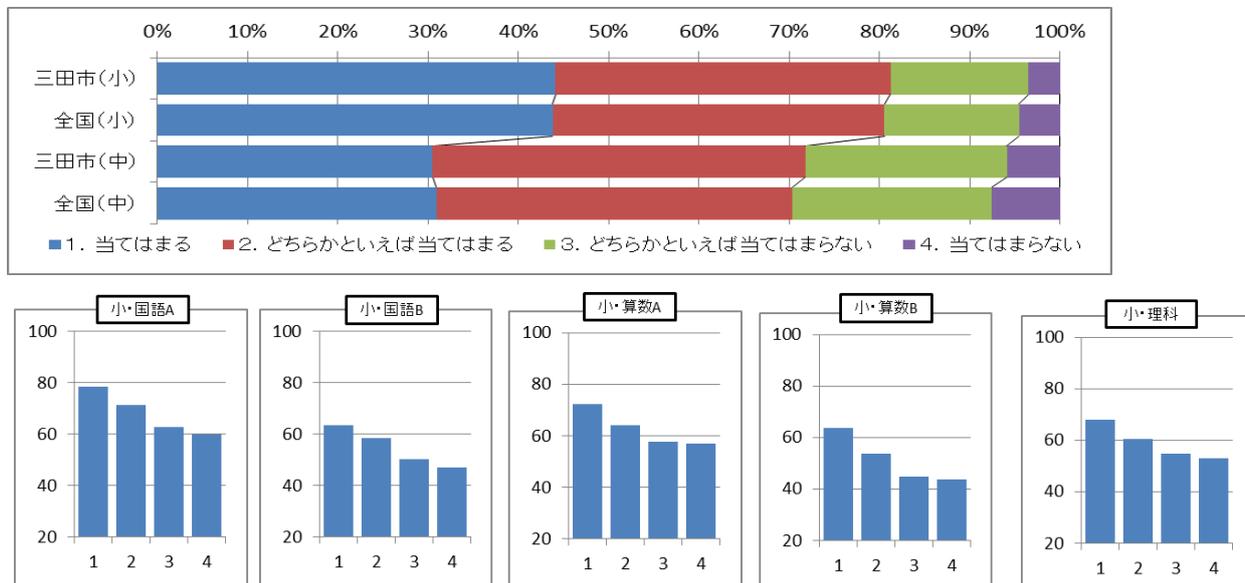
次期学習指導要領の中で、『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善』が求められています。

『主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの改善）』について

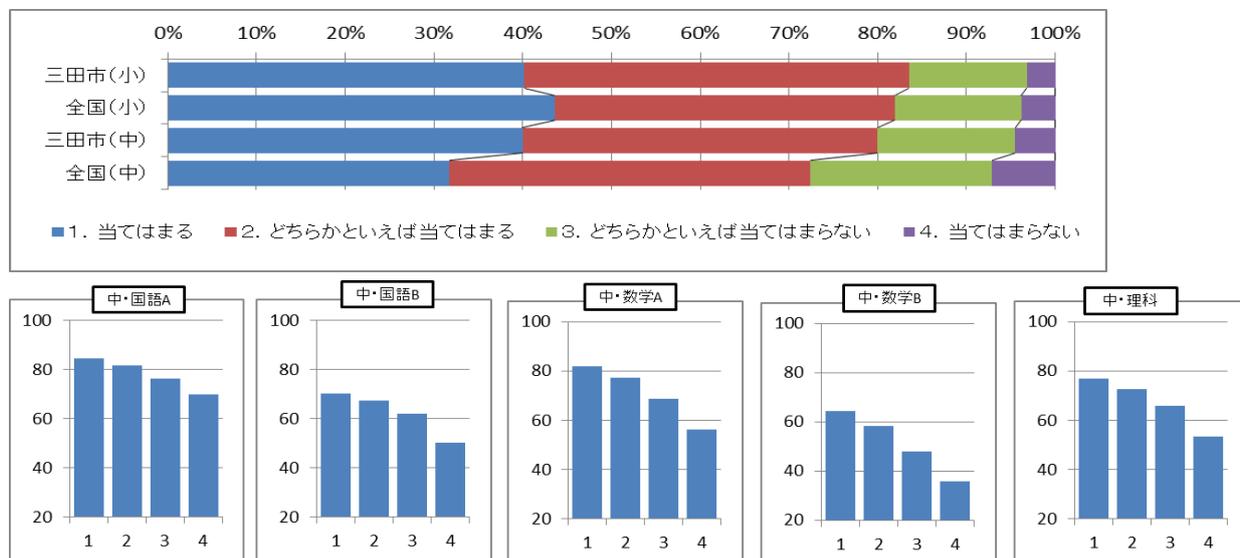
- 【主体的な学び】… 学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く学習に取り組むこと、自らの学習をまとめ振り返り次の学習につなげることなど。
- 【対話的な学び】… 子ども同士の対話、子どもと教員、子どもと地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図ることによって、自分の考えを広げ深めていくことなど。
- 【深い学び】… 学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互につなぎ、より深く理解したり、情報をよく吟味してそれをもとに考えを作ったり、思いや考えをもとに新しい考えを作ったりすることなど。

ここでは、「学ぶ意欲と学力」について、『主体的・対話的で深い学び』の視点から、児童生徒質問紙調査について分析します。棒グラフでは、2つの項目とも、「当てはまる・どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に答えている子どもの方が、平均正答率が高い傾向がうかがえます。

Q. 算数／数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。



Q. 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。(観察や実験の結果をもとに考察していますか:中学校)



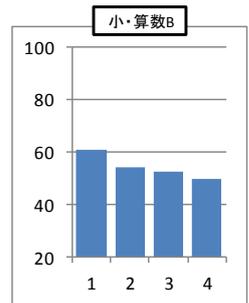
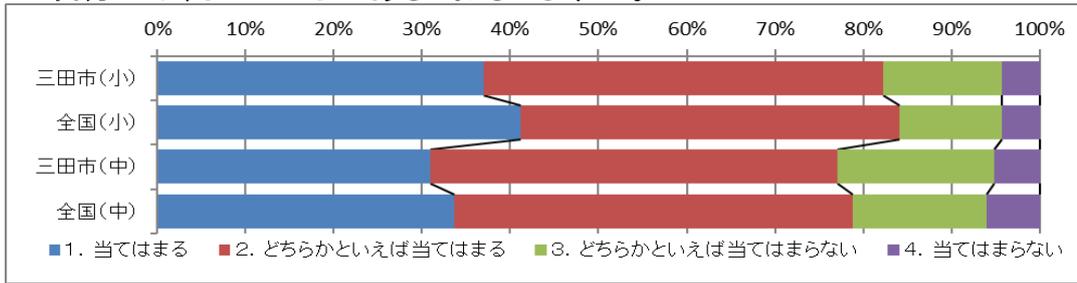
『対話』を通し、『学びを深める』学習を！

- ・情報を関連付けたり、判断の理由を論理的に表現したりする児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。
- ・三田市では各校において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「比較する」「分類する」「関係づける」「類推する」などの力を働かせて、論理的に考えたり、対話を通して考えを深めたりする学習が進められています。
- ・「深い学び」のある授業づくりに向けた授業改善は、児童生徒の学力の向上につながります。

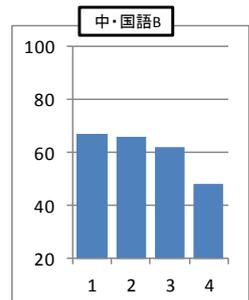
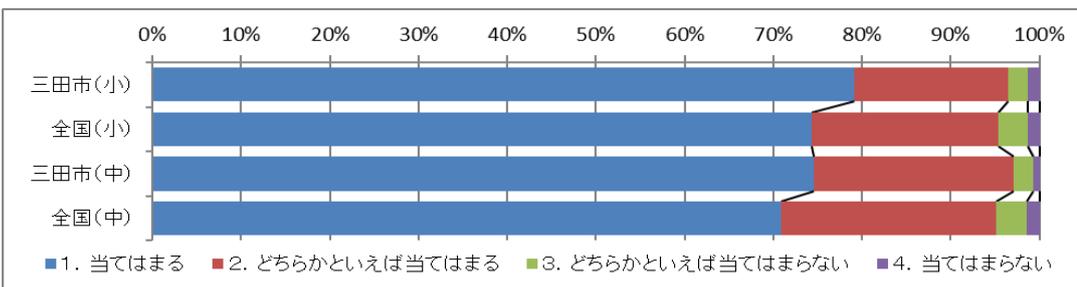


3 「自尊感情」と学力

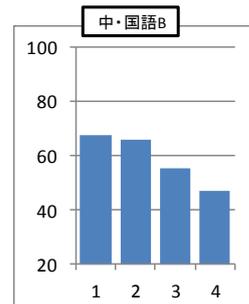
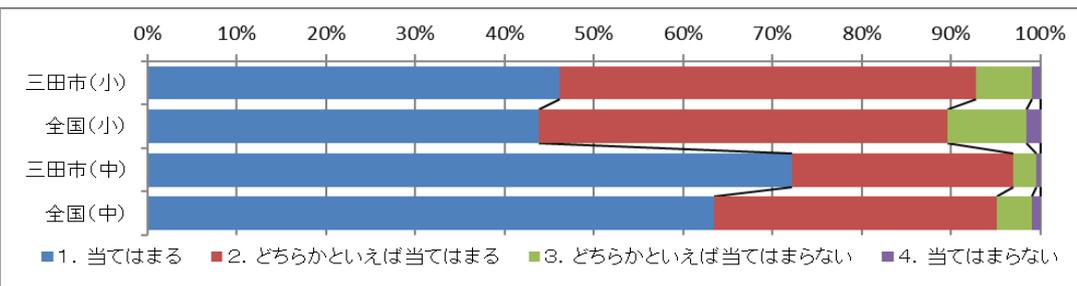
Q. 自分には、よいところがあるとおもいますか。



Q. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



Q. 学校のきまり・規則をまもっていますか。



自分が好き、人が好き、このまちが好き、夢に向かって歩むさんだっ子

- ・自尊感情が高い児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。児童生徒の自尊感情は、児童生徒が自分のよさを認められたり、自己の成長を実感したりする経験を積み重ねていくことで育まれていきます。
- ・児童生徒が主体的に社会に関わろうとする意欲や態度が、学力向上につながる傾向があります。児童生徒の成長を温かく見守り支援していく体制を学校・家庭・地域が連携して取り組んでいくことが大切です。
- ・集団や社会の中で、きまりの意義を理解し、誰に対しても公正・公平な態度で接するなど、主体的な判断に基づき行動できる力を児童生徒に育てていくことは、確かな学力向上にもつながっています。

